

サプライチェーンへの取り組み

変化の激しい事業環境下で多様な事業リスクが想定されるなか、ロームが掲げる「品質第一」の企業目的を実現するためには、原材料の調達段階における安定的な品質及び供給体制の確保や、信頼できるサプライヤーとの協力関係の構築が重要です。ロームは、適切なサプライヤーの選定及びCSR調達の実践を通じて、サプライチェーンの維持・強化を図っています。

サプライチェーンマネジメント <https://www.rohm.co.jp/sustainability/supply-chain>

マテリアリティ

持続可能なサプライチェーンマネジメント

▶ 2022年度の実績・KPI P24

・BCM体制の強化 ・グリーン調達の推進 ・CSR調達活動の推進

推進体制

ロームはサステナブルなサプライチェーン構築のため、独自のサプライチェーンマネジメントシステムを運営しています。本システムはEHSS統括委員会*の下部組織に設けられ、サプライチェーンリスクを適切に管理する役割を担います。委員長は

執行役員が務め、下部組織であるサプライヤー管理専門部会がサプライチェーンリスクの管理を行っています。

* EHSS (Environment, Health and Safety, Sustainability) 統括委員会: 8つの下部マネジメントシステム(環境、安全衛生、労働、倫理、情報、サプライチェーン、品質、リスク管理・BCM)を司り、それぞれのPDCAが適切に回っているかを確認する経営の執行責任者により構成された会議体

サプライヤーとの取り組み

持続可能な調達を推進するにはサプライヤーとの信頼関係・協力関係が欠かせません。ロームでは、サプライヤーとの密なコ

ミュニケーションを図るとともに、評価・監査プログラムを通して双方の関係強化を図っています。

評価・監査プログラム

1.活動総合評価	① 製品品質、② 納期、③ 価格、④ 供給の継続性 ※BCP取り組み評価、外部評価機関による財務評価 ⑤ 以下に示すCSR調達セルフアセスメント結果
2.CSR調達セルフアセスメント	RBA行動規範に準じた「労働(人権を含む)」「安全衛生」「環境」「倫理」「マネジメントシステム」とロームの独自項目である「情報セキュリティ」「調達BCP」「物流」に関して自己評価。サステナビリティハイリスクサプライヤーと認定されたサプライヤーについては、それぞれは正処置・改善支援を実施。
3.CSR調達監査	サプライヤーとの対話を通じて、ロームの方針やCSR調達に関する考え方、環境や安全・人権への配慮の重要性、及び活動内容の理解・賛同を目的に、セルフアセスメント内容の確認、工場確認の上、必要に応じて改善を要請。
4.調達BCP	「安定供給」を行う上でのリスクとその影響度を評価し、特定した重要なリスクに対して四半期ごとに対応状況を確認。

1.活動総合評価

サプライヤーの製品品質・納期・価格・BCPの取り組み状況や次項のCSR調達セルフアセスメントの結果も含めて活動を総合的に評価し、フィードバックしています。活動総合評価は、選定時及び契約締結時と、継続サプライヤーに対しては年1回のタイミングで実施されます。基準として決めた点数を獲得できない場合は契約から除外されます。

■ 2025年度までに年間購入金額の90%を占めるサプライヤーすべてに活動総合評価を行うという目標を設定し活動しており、2022年度の実績は95.4%となりました。

活動総合評価実施社数

年度	2020	2021	2022
評価社数(ローム単体)	242	205	203
評価社数	-	-	1,549

■ 重要なサプライヤー*に対して、2025年度までに活動総合評価を100%実施を目標としていましたが、2021年度で達成しており、今後も維持する方針です。

* 重要なサプライヤー <https://www.rohm.co.jp/sustainability/supply-chain/communication#anc03>

2.CSR調達セルフアセスメント

サプライヤーにセルフアセスメントを依頼しており、自己評価に基づいてランク分けをするとともにESGリスクの特定などを行っています。重要なサプライヤーはBランク以下、それ以外のサプライヤーはCランク以下をサステナビリティハイリスクサプライヤーと認識しており、該当のサプライヤーに対しては改善支援を行います。2025年度目標は、年間購入金額の90%を占めるサプライヤーすべてで評価B以上を獲得するとしています。2022年度の実績は、1,848社(前年度比245社増)にアセスメントを依頼し、評価B以上の割合は78.3%となりました。なおロームでは、バイヤー及び社内関係者を対象に、CSR調

3.CSR調達監査

ロームでは、重要なサプライヤーを対象に3年間で最低1回監査を行っています。監査はCSR調達担当者による第三者監査形式で、オンサイトまたはオンラインでのドキュメント確認や工場・寮の確認を行います。CSR調達監査は実態把握だけではなく、サプライヤーへロームの方針やCSR調達に関する考え方を伝えるとともに、サプライヤーとのCSR活動について相互に理解を深めるトレーニングの機会と捉えています。2022年度は13社(前年度比4社増)に監査を実施しました。また、2020

4.調達BCP

事業継続計画(BCP)の一環として、有事の際でも速やかに復旧が可能となる体制を整備し、代替材料を準備する取り組みを進めています。

- ① **調達部門におけるリスクの定義:** リスク管理・BCM委員会を設立し、各部門のリスク管理を行っています。調達部門では、これまでの「品質」「納期」「価格」「コンプライアンス」の4つのリスクに加え、「安定供給」を行う上でのリスクとその影響度を評価し、特定した重要なリスクに対して四半期ごとに対応状況を確認しています。
- ② **サプライヤーの選定:** 有事の際にはサプライヤーを含めたサプライチェーン全体で情報を共有し、供給継続に向けた対応が可能なサプライヤーを選定しています。
- ③ **BCPに関する取り組み:** 有事の際にいち早くサプライヤーの被災・安否状況や供給状況の確認が取れるよう、調達部材の製造会社・製造場所の情報を調査し、データベース化しています。

一次サプライヤー生産拠点調査

有事の際、影響範囲を瞬時に特定できるよう、一次サプライヤーから調達しているすべての材料・装置・部品約70,000アイテムの生産拠点調査を2025年度までに100%実施することを目標に掲げ、現在調査を進めています。また、取り組みの実績を「一次サプライヤー生産拠点調査比率」として数値管理し、毎年モニタリングを行っています。

達セルフアセスメントプログラムに関する研修を毎年行っています。2022年度は調達部員61名に研修を実施しました。

サプライヤーのアセスメント結果

年度	2020	2021	2022
評価社数	1,538	1,603	1,848
評価B以上の割合(金額ベース)	-	-	78.3%

～2022年度にかけて重要なサプライヤーへの監査は100%実施しました。

CSR調達監査実績

年度	2020	2021	2022
訪問社数	17	9	13

有事対応における事前合意

重要な材料を取り扱うサプライヤーとは、有事発生の際の対応方法について事前に合意する取り組みを進めています。2025年度までに事前合意100%達成を目標に掲げ、取り組みの実績を「有事対応事前合意率」として数値管理し、毎年モニタリングを行っています。

サプライチェーンへの取り組み

人権についての取り組み

基本的な考え方

ロームは、「人権とは、世界中のすべての人が持っている基本的な権利であり、自由であり、待遇のための基準」と考え、「ローム人権方針」を定めています。本方針は、ロームの事業活動における人権尊重への取り組みに関するすべての文書・規範の上位方針に位置付けられており、世界中でロームが行うあらゆる活動に適用されるものです。ロームは、グローバルに事業を展開する企業として、国際原則・規範を支持・準拠し尊重しています。事業活動を行う国の法規制と国際的な人権規範が異なる場合は、より高い基準に従います。

ロームが支持する国際原則・規範

- ・国連グローバル・コンパクトの10原則
- ・世界人権宣言
- ・国際労働機関 (ILO) 「労働における基本原則及び権利に関するILO宣言」
- ・国連「ビジネスと人権に関する指導原則」
- ・OECD多国籍企業行動指針
- ・ISO26000
- ・RBA (Responsible Business Alliance) 行動規範

人権デューデリジェンスの実施

ロームは、支持する原則や規範に従って、事業活動に関連する人権に対する負の影響を特定し、予防・軽減する人権デューデリジェンスを行います。これにより問題が明らかになった場合には、適切な救済措置を講じます。また、ホットラインを整備し、実効性のある通報対応の仕組みづくりを継続します。さら

に、人権意識の向上を図るため、役員及び従業員に対して必要な教育及び能力開発を実施していきます。これらの人権尊重の取り組みに関しては、外部ステークホルダーからの専門的な助言を通じて取り組みを強化していくとともに、進捗状況についても、適切かつ定期的に公開を行います。

推進体制

ロームでは、経営の執行権限を持つ取締役とそれに準ずる権限を持つ執行役員及び、事業本部責任者、各マネジメントシステムの責任者から構成されるEHSS統括委員会は、8つの下部マネジメントシステムを司っています。各分野において検討された人権リスク管理のPDCAが適切に回っているかを確認しています。EHSS統括委員会における決議事項は、8つの委員会を通じロー

ム社内関連部門とグループ会社へ伝達され、施策が実行されます。ロームでは、サステナビリティマネジメント体制に基づき各専門部会や社内関連部署、グループ会社と協力し、PDCAサイクルを回すことで各テーマのマネジメントシステムの認証を取得しています。これらの活動を通じて「会社の品質」を更に向上させ、ステークホルダーの皆さまから選ばれる企業を目指しています。

サプライチェーンにおける人権アセスメント

サプライヤーに対しては、RBA行動規範に示す項目に関してセルフアセスメントを依頼しています。その回答結果やCSR調達監査を通して、労働(人権)を含め評価が低い項目について

は改善を要請しています。また、監査時や会合時においては、人権尊重の重要性を含め、サプライチェーン全体でCSR調達を行うことの必要性を啓発しています。

人権教育

各国・各地域の文化・宗教・慣習・制度などを尊重し、価値観の多様性を理解した上で行動するよう新入社員・キャリア入社者・部門長・役員などを対象にした階層別の人権研修を実施してい

ます。また集合研修に加えて、労働・倫理にまつわるeラーニングを実施しています。

児童労働・強制労働の禁止

「ロームグループCSR調達ガイドライン」では強制労働・児童労働の禁止を定めています。2017年度には「英国現代奴隷法に関する声明」を発行し、すべてのサプライヤーに人権への配

慮をお願いしています。取り組みの実効性や遵守状況については、毎年、内部監査を実施するとともに、顧客監査やRBA監査等の外部監査でも確認しています。

責任ある鉱物調達

2021年に「EU紛争鉱物規則」が施行されるなど、世界中で責任ある鉱物調達の必要性・重要性が増しています。ロームでは、紛争だけでなく、OECD Annex IIリスクを含む人権侵害や環境破壊などのリスクや不正に関わるスズ、タンタル、タングステン、金、コバルト、マイカなどの鉱物問題に対し、サプライチェーン全体で責任ある鉱物調達に取り組んでいます。

また、顧客に安心してローム製品を使用していただけるよう、サプライチェーンマネジメント本部が中心となって「OECDデューデリジェンス・ガイダンス」に沿った鉱物調達調査を実施しています。

調査の結果、2022年度のCFS認証率は前年と同様98%となりました。残り2%の鉱物に関しては代替供給元を調査しています。今後、万が一ロームの製品において武装勢力の資金源となっている紛争鉱物の使用が判明した場合には、可能な限り迅速に是正措置を講じてまいります。

グリーン調達

化学物質管理に関わる法規制が厳しさを増すなか、グリーン調達を推進するため、調達する部品・材料が含有する化学物質調査の精度向上に取り組んでいます。ローム独自の基準に照らし合わせて部材の含有物を審査し、基準を満たしたもののみを「調達システム」に登録することで、使用禁止物質を調達しない仕組みを構築しています。また、サプライヤーには、グリーン調

2022年度の調査結果

調査対象のサプライヤー :98社
 調査回答入手のサプライヤー :98社、入手率100%
 特定した製錬サプライヤー :全鉱物で211社(その内、RMIのRMAP認証を取得している製錬所は206社)

	金	タンタル	スズ	タングステン	全体
全製錬所数	99	35	39	38	211
CFS*認定製錬所数	98	34	39	35	206
CFS*認証率	99%	97%	100%	92%	98%

※CFS: Conflict Free Smelter (紛争鉱物を使用していない製錬業者)
 ロームでは、RMI (Responsible Mineral Initiative) のRMAP (Responsible Minerals Assurance Program) によって認証された製錬所をCFSと定義しています。


達ガイドライン*1及び製品化学物質管理基準書*2を発行し、部材の指定基準への適合状況の確認を依頼しています。

- ※1. グリーン調達ガイドライン
https://www.rohm.co.jp/documents/11401/12006500/ROHM_Green+Procurement+Guidelines_006jp.pdf/6c2a1d87-320b-e05a-9515-21358b0e41fb?t=1694482101733
- ※2. 製品化学物質管理基準書
https://www.rohm.co.jp/documents/11401/12006500/ROHM_Control+Standards+of+Chemical+Substances+in+Products_002jp.pdf/a6ddc96b-171c-b3dc-210d-a6dca42c9076?t=1694482102397

未来への挑戦 ▶▶ **ロームの先進的な取り組みをサプライチェーン全体に広げていく**

ロームは、「責任ある鉱物調達検討会」(電子情報技術産業協会)の発足当初より参画し、効果的な施策の検討を行ってきました。また、10年以上前から自主的にRBA監査を受審するなど積極的な活動を行っています。人権を尊重する企業の責任として、この取り組みをサプライチェーン全体に広げるため、個別相談会の開催などを通じて、お取引先様の疑問の解消や取り組みの強化につなげていきます。また、RMI*1が推進するRMAP*2の認証制度をすべての取引先製錬所が受審し、適合製錬所の認証を獲得していただけるよう、継続的なデュー・デリジェンスを実施します。

今後も重要な社会課題の一つである責任ある鉱物調達に関する法令規則を遵守することで経営品質を高め、社会やお客様から信頼され、安心していただけるサプライチェーンを構築していきます。



SCM本部 調達部 調達管理課
CSR調達G グループリーダー
姜 彩雲

*1 RMI (Responsible Mineral Initiative/責任ある鉱物調達イニシアチブ)
 *2 RMAP (Responsible Minerals Assurance Process/責任ある鉱物を保証する監査プロセス)